

**問題No.1**

工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 見積書の調査
2. 施工図の検討及び承諾
3. 実行予算書の作成
4. 請負契約案の作成

**【解説】**

3. 実行予算書の作成は、施工者の業務である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 370～373 参照

答 3

-----

**問題No.2**

工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 模型、材料及び仕上げ見本の検討及び承諾
2. 施工計画書の作成
3. 施工者の選定についての助言
4. 工事公害防止等近隣対策などの検討及び助言

**【解説】**

2. 施工計画書の作成は、施工管理者の業務である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 370～373 参照

答 2

-----

**問題No.3**

基本設計段階の積算業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 各種の積算データを活用した工事費の算出
2. 予算に適合させるため、VE（バリュー・エンジニアリング）などの手法を用いた代替案の提案
3. 維持管理上のランニングコストの算出
4. 事業計画をもとに、概略の積算を行う

**【解説】**

4. 企画・基本計画段階の積算業務である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 379 参照

答 4

**問題No.4**

積算・見積りに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 積算の数量の種類は、設計数量、積算数量、所要数量である
2. 工事費の構成は、直接工事費と共通費である
3. 単価の種類は、単価、複合単価、合成単価に分類される
4. 発注者の投資計画には、ランニングコストも含める

**【解説】**

改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.379～381 参照

答 1

---

**問題No.5**

積算・見積りと工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか

1. 見積り合せとは、複数の施工者を指名し、見積書を比較検討し、発注者に有利な施工者を選ぶ方式である
2. 一式請負は請負者が単独であり、工事を一括して請け負わせるので発注者の意向を伝達しやすい
3. 概算積算とは、過去の工事実績資料等をもとに詳細な工事費を算出することを言う
4. 請負契約は、工事請負契約書および同約款を用いて、発注者と請負者が対等の立場で契約を結ぶ

**【解説】**

改訂新版・Vol.4「商業施設・創造とデザイン」p.379～385 参照

答 3

---

**問題No.6**

工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 競争入札は、一般競争入札と指名競争入札に大別される
2. 分割請負方式は、専門技術を要する工事などを分割して発注する方式で、発注先が多岐にわたるため、監理業務が煩雑になりやすい
3. CM方式は、一式請負と分割請負方式をミックスさせた方式で分割発注に比べ、発注者の契約手続き、工事監理者の業務が軽減される
4. 一般的に随意契約の決め方には、特命随意契約と見積り合せの2つがある

**【解説】**

3. コストオン発注方式の説明である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 385 参照

答 3

---

**問題No.7**

防水工事における下地処理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. アスファルト防水での平面での出隅の処理を面取り加工とした
2. シート防水の立上り部の出隅の処理を面取り加工とした
3. シート防水の平面での入隅の処理を直角に加工した
4. アスファルト防水の立上り部の入隅の処理を直角に加工した

**【解説】**

4. アスファルト防水は材料の積層による工法などの特質から曲げ加工が難しいため、入隅は直角加工が困難である。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 389 “下地の入隅、出隅の形状” 参照

答 4

---

**問題No.8**

タイル工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 張付けモルタルを平らに塗り付けたのち、台紙に張ったモザイクタイルを張る工法を「モザイクタイル張り」という
2. 壁面乾式下地に湿った砂とセメントを空練りしたモルタルで張り付ける工法を「圧着張り」という
3. 石膏ボード下地に、接着剤を平に塗付けタイルを張る工法を「接着剤張り」という
4. 床を比較的大面積に張る場合には、下地モルタルを塗り、硬化後張付けモルタルを平に 3 mm程度塗り付け、タイルをなじませるようにして張る

**【解説】**

2. ばさモルタルは床の小面積規模に張る際の工法であり、壁では用いない。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 391 参照

答 2

---

**問題No.9**

金属工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 炭素鋼は鉄を主な成分とし、炭素の量により使用部位が変わるが、鉄筋や鋼管、溶融亜鉛めつ

き鋼板等に使用される

2. 天井下地組工事中において、天井のふところが 1.5m 以上の場合は振れ止め補強を行う
3. アルミニウムは加工しやすいため、天井下地の材料として使用される場合が多い
4. ステンレスは比較的耐食性の高い金属であるが、不適切な使用をすれば錆びる場合がある

**【解説】**

3. 天井鋼製下地に使用するのは溶垂鉛めっき鋼板またはステンレスである。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 393 参照

答 3

---

**問題No.10**

左官・塗り床工事にに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 防塵が要求される室内の床をエポキシ樹脂塗り床塗り仕上げとした
2. 厨房床の仕上げモルタル塗りを木ゴテ押さえとした
3. 壁面のモルタル下地処理において、付け送りの厚さは最大 25 mm までとした
4. 気温が 5℃ 以下の場合や湿度が 80% 以上の場合は塗り床の施工を中止する

**【解説】**

2. 厨房の床モルタルが仕上げの場合「金ゴテ」押さえとする。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 394 参照

答 2

---

**問題No.11**

造作・家具・什器工事にに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 高級家具・什器などは、光沢があり、キズがつきにくい紫外線硬化型塗装（UV 塗装）を用いる
2. 厨房カウンターや壁面腰下部分・幅木など強度が要求される部位ではステンレス仕上げを使用し、キズなどが目立ちにくいヘアライン仕上げを採用する
3. 木工家具の風合いをそのまま見せたいので、什器の塗装仕上げにVP 塗装を行う
4. 耐水性、耐候性、耐磨耗性にも優れるため、家具や木工製品の表面材の接着にメラミン樹脂化粧板を使用する

**【解説】**

3. 木目を出した塗装仕上げは染色クリアラッカー仕上げ。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 399 参照

答 3

---

**問題No.12**

次の文章に該当する石材はどれか。

『堆積岩（水成岩）の一つ。硬度が低く割り肌加工されることが多い。吸水率が高く苔やかびが付きやすいため内装に使用するのが好ましい。意匠性に優れ、インド産のものが多い。』

1. 砂岩
2. 花崗岩
3. 大理石
4. 粘板岩

**【解説】**

改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 408～409 参照

答 1

---

**問題No.13**

ガラスに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フロートガラスは溶融金属上に浮かべて製造する
2. 合わせガラスとは複数枚の板ガラスの間に乾燥空気層を設けたものである
3. すり板ガラスは表面に無数の細かい傷があり、同じ厚みの透明ガラスに比べ曲げ強度などが弱い
4. 強化ガラスは熱処理ガラスの一種である

**【解説】**

2. これは複層ガラスの説明。合わせガラスは空気層を設けない。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 412～414 参照

答 2

---

**問題No.14**

断熱材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 水分を含むと断熱性能は低下する
2. 空調負荷低減に大きな効果があり、地球温暖化ガス削減にも寄与する
3. 材料中に含まれる空気の対流による放熱で断熱効果を得ている
4. 結露防止に効果があるが、断熱層の貫通部などヒートブリッジ（熱橋）に注意する必要がある

**【解説】**

3. むしろ小さな気泡とすることによって対流を防止している。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 424～425 参照

答 3

---

**問題No.15**

機能・性能と材料の組み合わせに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 断熱 ----- 硬質ウレタンフォーム
2. 吸音 ----- 木毛セメント板
3. 遮音 ----- コンクリート
4. 耐火被覆 ----- グラスウール

**【解説】**

4. グラスウールは高温領域では使えない。改訂新版・Vol. 4「商業施設・創造とデザイン」p. 424～426 参照

答 4